

竜山石

竜山石は、その淡い色合いと、柔らかな質感などの有用な物理的特性により、古くから建築材料として好まれてきました。マグマと冷水の突然の接触によって形成された微細なガラス質の破片の集合体であるハイアロクラスタイトは、約 1 億年前に形成されました。その主な色は青、黄、赤です。

竜山石は、その特徴と、竜山の採石場が加古川を経て瀬戸内海に近いことから、古くからこの地域各地で利用されてきました。当初は墓室（古墳）に使われていましたが、竜山石の棺には身分の高い人しか納めることが許されなかったため、「大王の石」とも呼ばれるようになりました。

最近では、この石は神社の基礎、城の石垣、塔、彫像、鳥居、東京の皇居吹上御所のバルコニー、近代建築などに使用されています。

現在も操業中の採石場から竜山石が採掘され、国内外の建築、壁、住宅の基礎、造園などに利用されています。その素材を使って食器やアクセサリ、コースターなどの小物も作られています。高砂のお土産としてよく売られています。

竜山石は、約 1700 年前からこの場所から切り出され続けています。これほど長い期間、同じ場所

で採掘された石は日本で他に知られていません。